

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
教育目標「心豊かで主体的に学びたくましく生きる生徒の育成」 目指す生徒像 1 豊かな心を持ち、個性を伸ばし、目標に向かって粘り強く努力のできる生徒 2 自他の生命や人権を尊重し、思いやりを持って、互いを認め合う生徒 3 自ら考え、判断し行動することのできる生徒	○ 教師と生徒の人間的なふれあいを深め、信頼感に基づいた実践により、基礎学力の充実を図ると共に、個性を生かし、人間性豊かな生徒を育成する。 1 学習指導の充実 4 人権教育の充実 7 特別支援教育の充実 2 生徒指導の充実 5 道徳教育の充実 3 キャリア教育の充実 6 生徒会活動の充実

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】 全国(3年) ○国語のA問題・B問題と数学のB問題は、県・全国平均より低かった。数学のA問題は県・全国平均よりかなり低かった。 ○国語A問題では漢字を書く(雨で運動会がエンキになる)本校77.8% 全国62.3%と高かった。「読む能力」は本校69.3% 全国73.8%と低かった ○国語Bでは「スピーチ内容を聞き手からの意見に基づいて直す」が低かった。本校37.8% 全国57.6%であった。 ○数学Aでは「関数」の分野が低く、基礎基本の定着が必要である。「二次1次方程式のグラフを選ぶ」本校48.9% 全国63.0%。 ○数学Bでは「資料から必要な情報を適切に読み取る」が高い。本校84.4% 全国79.3%。 ○国語は「読む能力」、数学では「数学的な考え方をさらに向上させる必要がある」。 県(1年) ○全体的に2教科共に県平均正答率を上回っている。特に国語はかなり高い。 ○基礎・活用についても、県平均を上回った。活用については大きく上回り、表現力や説明力が定着している。 ○国語では「漢字を書く」(本校97.6% 県80.4%)「文法・語句に関する知識」(本校65.3% 県66.7%) ○数学では「場合の数」(本校77.4% 県69.3%)「百分率」(本校26.0% 県49.9%) 県(2年) ○3教科共に、市町村平均は基礎・活用共に上回ったが、県平均は基礎・活用共にやや下回った。 ○基礎については、県平均は、国語・数学についてはやや低いが、英語については低かった。 ○活用については、県平均と比べると国語はかなり低く、英語は低い、数学はやや低かった。 ○国語「本の紹介カードを書く」(本校47.3% 県57.5%) 数学「文字式」(本校54.3% 県60.4%) 英語「単語の並び替えによる英作文」(本校51.2% 県58.3%)と低かった。しかし数学の「平面図形」は(本校76.7% 県62.0%)と高かった。 ○国語・英語では「読むこと」が低く、読み取る力をつけることが必要である。数学では、「比例・反比例」「図形」の定着が必要である。	【学習状況調査の結果】 全国(3年) ○テレビの視聴時間は、全国・県に比べ長い時間見ている。「読書が好きか」は全国・県に比べ低かった。読書時間は1日当たり10分～30分が多かった。 ○家での家庭学習は、県・全国に比べている割合は高い。宿題などは割合が高いが、予習・復習については割合がやや低い。 ○地域の行事やボランティア活動など、地域への関心は高い。 ○いじめについてはいけないことだという生徒の割合が高い。 ○「総合的な学習」で、積極的に調べたり、発表したりする取り組みに参加している生徒の割合が非常に高い。 ○授業では提示された目標を意識したり、まとめて振り返りの活動をする割合が高い。 ○スマートホンの利用時間が県・全国の割合に比べて長い時間になっている。 県(1年) ○テレビを見たりやゲームなどをする時間は、県平均と比べてやや長い。 ○読書や新聞を読んだりする割合が、県平均よりやや低い。 ○基本的な生活習慣や授業規律については、きちんとできているといえる。 ○「自分が好き」「他人や親から認められている」「目標を持っている」など自尊感情に関することは県平均より高い。 ○数学や国語など予習・復習をしているが、県平均よりやや低い。 県(2年) ○家庭学習は1時間～2時間の間が多い。県平均とくらべ、家庭学習の時間は多いといえる。復習は県平均より高いが、予習はやや低い。 ○「読書」は県平均より高かった。「新聞を読む」はやや低かった。 ○「目標を認識し、授業でしっかりと考え、振り返りをしていた」と感じている生徒は県平均より高い。 ○1年・2年共にあいさつは、生徒会の「あいさつ運動」の成果もあり、県平均より非常に高い。
---	---

成果

・各教科のB問題(活用)は、授業改善(アクティブラーニング・班やグループ学習)によって向上してきている。
 ・国語の漢字や、数学の計算は、朝学習やチャレンジテストによって、高い平均率を保っている。
 ・アクティブラーニングなどグループや班を使っている学習で、B問題に必要な表現力や説明力の力がついてきた。
 ・小中連携で取り組んでいる学習規律の実践で、落ち着いた環境で学習ができるようになっている。
 ・全学年、授業では落ち着いた雰囲気の中できている。

課題

・予習・復習の時間が県平均と比べ低かった。家庭学習の改善が必要である。
 ・基礎・基本の定着を強化していく。(データベースの効果的な利用)
 ・読書習慣を小中連携の取り組みとして実施する必要がある(読む能力の強化)
 ・数学では、「関数」「図形」の分野を強化していく必要がある。
 ・国語は考えを書いたり、説明したりすることが苦手な生徒が多い。今後授業で表現する力を鍛える取り組みが必要がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
基礎・基本の定着	毎学期末	現平均ポイントを、5～10ポイント上げていく。	・データベースを朝学習や復習や長期休業中の課題に取り入れる。(全学年) ・計画的な放課後学習の実施。(3年) ・チャレンジテスト(1学期:国語 2学期:英語 3学期:数学)	データベースは、朝学習で、また教科によって授業や長期休業中の課題として利用。11月5教科で3年放課後学習の実施。チャレンジテスト・Tチャレで基礎基本の定着をはかれた。	B	本年度は朝学習でデータベースを使って、朝学習を行った。Tチャレテスト等で基礎の学習が図れた。チャレンジテストで基礎学力の定着が図れた。各学年基礎基本が深まった。	B	全国・県学力状況調査を、県または全国レベルまで高めていく。学力補充(放課後学習、朝学習)などの効果的な指導法を考え、基礎学力をさらに高める。きめ細やかな指導をすることで、基礎基本の定着が不十分な生徒への支援を進めていく。
家庭学習	毎学期・毎時間	・課題などの提出率を100%にする。 ・次時の授業の予習をさせる。	・全員提出まで、放課後を利用して行う。 ・授業で、家庭学習で調べたことや、考えたこと、疑問点などが発表できる場をもたせる。 ・自主学習ノート利用	教科では、毎日の課題については発して指導。定期テスト後の提出物はほぼ100%提出させている。自主学習ノートを利用して積極的な学習に取り組んでいる。	B	家庭学習では、各教科1年を通して、提出させることができた。自主学習ノートなどの提出者が増えたり、1年間通して提出することで基礎の定着を図る生徒が増えた。	B	学力を高める、有効な家庭学習のやり方を考えていく必要がある。また、家庭学習と授業がリンクして、学習が深まるようにしていきたい。課題提出など提出率が高いが、さらに提出物から定着できていない部分を指導する工夫をしていく。
授業改善	年度末	・授業規律の徹底 ・表現力・説明力・活用力の定着 ・加茂中スタンダードの完全実行	・小中連携として学習規律10項目の徹底 ・アクティブラーニング・ICTの利用 ・目標の提示・振り返り・本時の流れの提示 ・研究授業を通して授業改革の研修と実践	班やグループ学習での学習形態が定着してきた。加茂中スタンダードについては継続できている。校内研究でテーマに沿った研究が計画的に行われている。	A	校内研修での研究授業を通して、授業改善ができた。加茂中スタンダードやアクティブラーニングで、主体的・対話的・深い学びを実行使用とすることができた。	A	加茂中スタンダードの徹底。主体的・対話的・深い学びの指導法の研究と工夫を高める。特に、振り返りの方法を考えていく。研究授業での授業力向上と学力向上を図る研修を深める。

※達成度 「S:目標を多きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組

○県・全国学力学習状況調査の分析を基に、強み弱みを共有し、小・中が連携して授業改革を検討し、教科の学力の向上に取り組む。
 ○教えあい・学びあいなど、アクティブラーニングの手法を用いて、学習の深まりを目指すしていく。
 ○岡山型スタンダードを基にした、「加茂中スタンダード」を実施し、学習規律や学習の視覚化を行っていく。
 ○小中連携による授業公開を行い、生徒・学習内容の情報交換や情報共有をしていく。
 ○家庭学習の取り組みについての連携を図っていく。(自主学習ノート、問題集の利用 授業との連携 等)

保護者・地域へ理解・協力を求めること

○中学校定期テスト期間の「ノーマディア」の実施と協力要請。
 ○「学校教育のアンケート」の実施を行い、日々の教育活動に生かしていく。
 ○学級懇談・三者懇談で教育活動についての理解と協力を得ていく。
 ○地域の行事への参加やボランティア等を通して、学校教育や生徒への理解をより深めてもらうよう努力する。